

山内 一般実験レポート等ルーブリック

評価項目区分		満点	基準	加点・減点										評点	
				綴じ方		表紙		目的方法		段落構成		他減点			
表紙・序論・方法		5	5	○	0	○	0	有	○	0	○	0			5
結果	図表	10	10	必要数	欠落数	作成		標題		ラベル	注釈			10	
				5		○	0	○	0	○	0	○	0		
	文章	10	4	文章有無	段落構成	増減直接入力 (-3~0~6)								4	
				有	○	0									
考察		20	10	文章有無	段落構成	増減直接入力 (-8~0~10)								10	
				有	○	0									
参考		5	5	項目有無	表示有無	作成方法								5	
				有	○	0	○	0							
その他調整			0	調整増減点直接入力										0	
												評価粗点	34		
												最終評点	34		

遅延レベル 遅延なし

【ポイント】

- 1) 表紙を的確に作成（最低限、授業回・授業名・学部学科・学籍番号・氏名が必要）。本体の項目は、目的・方法・結果・考察・（課題）・参考の順とし、それぞれ項目名を明記する。様式は、表紙+本体とし、フォントサイズや文字間隔、行間を見栄え良く設定し、文体は「である調」で統一する。最後に左上をホッチキスで閉じる（無針綴じは、提出されて重なると外れることがある）。
- 2) 指示されたデータ処理等に応じた図表が必ず必要である。グラフにするか表にするかは自由であるが、レポートはプレゼンテーションであるため、よりの確な表現になるように（とくにグラフは、棒グラフにすべきか折線グラフにすべきかなどに注意）作成する。図表には的確なラベル（項目表示）を行い、罫線なども含めて見栄えを意識したデザインとする。また、とくにグラフにおいては的確な注釈が必要である。さらに、結果は図表のみで終了するのではなく、その図表から読み取れる事実（数値や図の形状）を的確に記述する。
- 3) レポートで最も重要なのは考察である。正しい文章構成（一文字下げた段落構成）はもちろんのこと、提示した結果全てに関連して分かったこと（分かること）や考えられることを論理的に記す必要である。このとき、事前に予測された結果や理論と比較してどうだったのかも考察する必要がある。そのためには、相応の参考文献等が必要である、このとき、引用部分には参考文献の番号を必ず付して明示しなくてはならない。
- 4) 目的・方法・考察などで明示した箇所の参考文献情報を一覧できるように明記する。このときに必要な情報（著者、タイトル、雑誌・書籍名、巻・号・班、ページ範囲、発表年、書籍の場合は出版社名、Webの場合はURLアドレスと最終閲覧日など）の順番は特に決まりはないが、1つのレポートで統一された順序や表記にする必要がある。